

# 沿岸有用資源の種苗生産と効率的な放流技術開発

( 増養殖技術開発事業 )

内田 浩

## 1. 研究目的

栽培対象種であるメガイアワビの種苗放流は平成7年度から本格的に開始され、現在では県内各地先で放流が実施されている。しかしながら、その放流効果は明確になっていないのが現状である。したがって、メガイアワビの放流効果を把握するための調査を実施すると共に、効率的な放流方法の検討を行う。

## 2. 研究方法

### 放流効果調査

多伎町漁協を調査対象とし、アワビ類の漁獲動向や、水揚げされたメガイアワビの殻長及び放流貝の混獲率を調査した。

## 3. 研究結果

### (1) 漁獲動向

藤川ら<sup>1)</sup>は、多伎海域のアワビ漁獲量は昭和49年以降、約1.5～2トンで安定していると報告している。調査後の平成7年以降は、漁獲量が減少し1トンを下回るようになった。しかし、平成12年以降は回復傾向にあり、平成15年は1,669kg(クロアワビ：1,152kg、メガイアワビ：517kg)で前年より減少したものの、過去10年平均の約1.4倍となった。種類別では、クロアワビ、メガイアワビとも増加傾向にあるが、漁獲物に占めるメガイアワビの割合が、近年高くなっている。藤川ら<sup>1)</sup>は、多伎海域で漁獲されるアワビの大部分はクロアワビと報告しており、平成6～7年ではメガイアワビの占める割合は15%程度であったが、その後増加して、平成13年以降は約30%をメガイアワビが占めている。

### (2) 放流個体の漁獲物混獲率調査

多伎海域におけるアワビ類の漁獲盛期は1～3月である。この時期の放流メガイアワビの混獲率は平成13年で47%、平成14年79%、平成15年65%、平成16年では44%と高い傾向を示している。

## 4. 文 献

- 1) 藤川裕司・山田 正・勢村 均・郷原育郎：島根県水産試験場事業報告書(平成5年度)、154 - 162(1992)。